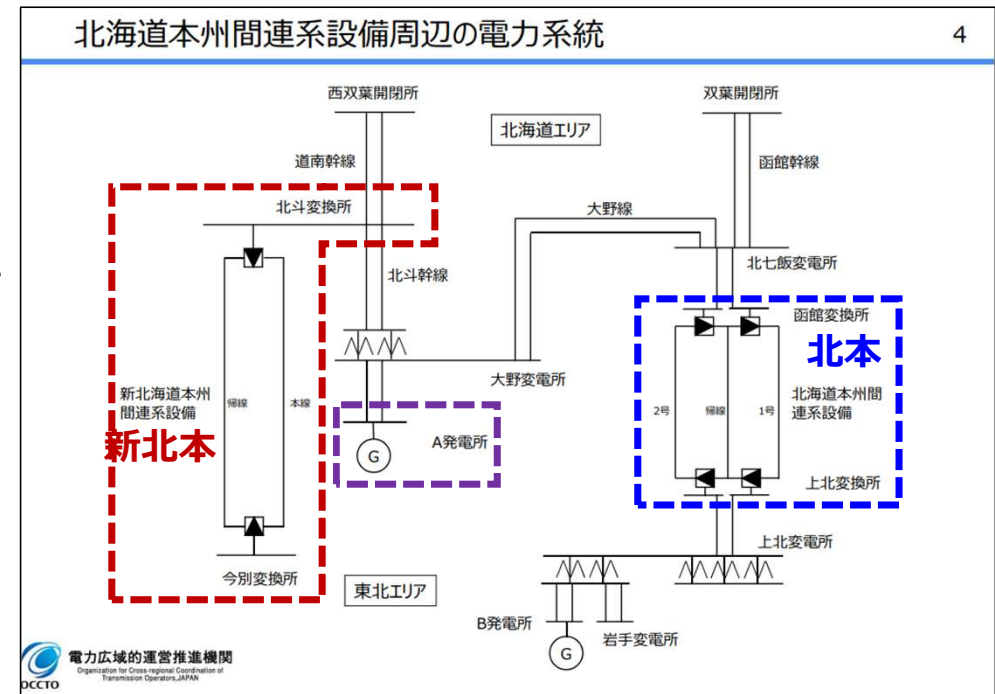


**(報告) 新北海道本州間連系設備(AVR運転)と
A発電所の同時停止に伴う
北本連系潮流限度値(逆方向)の見直しについて**

2026年 6月 9日

北海道電力ネットワーク(株)

- ◆ 北海道エリアにおける現行の連系線運用容量は、**北海道本州間連系設備(以下、北本)**の安定運転に必要な短絡容量を確保するため、近隣の電圧調整可能な設備である**新北海道本州間連系設備のAVR機能(以下、新北本)**や**A発電所**が運転していることを前提としている。
- ◆ 2027年度末に予定されている新北本の第2極増設に向け、今年度より新北本の長期作業停止が計画されている中で、A発電所の計画外停止が発生したことにより、新北本とA発電所が同時に作業停止する状況が生じることとなった。
- ◆ 新北本とA発電所の同時作業停止期間における系統安定性について検討した結果、**北本の安定運転に必要な短絡容量が不足することが判明した。**
- ◆ このため、新北本とA発電所の同時停止時において北本安定運転のため、**逆方向側(北海道向)の運用容量を減少させる。**



逆方向側(北海道向)運用容量の見直しについて

- ◆ 北本連系点において短絡容量が不足した場合、北本の制御運転や系統電圧が不安定となり、北本が停止する懸念も考えられる。
- ◆ 新北本とA発電所の同時停止中について詳細検討を実施した結果、逆方向(北海道向)において(下図赤枠)、安定運転に必要な短絡容量が不足する虞があることが分かった。
- ◆ このため、新北本とA発電所の同時停止時を考慮し、逆方向側(北海道向)の北本運用容量について青字のと通りの運用とする。

※ なお、順方向側(東北向)は調相停止時に運用容量が抑制されることから、短絡容量不足の懸念は発生しない。

▶ 北海道本州間連系設備連系潮流限度値 (北海道向)

系統条件 潮流方向	北海道エリア内 A発電所 運転	新北本 運転	連系線潮流限度 (万kW)								
			4回線		3回線		2回線			1回線	
			道南2 函館2	道南2 函館1	道南1 函館2	道南2 函館0	道南1 函館1	道南0 函館2	道南1 函館0	道南0 函館1	
東北 → 北海道	2台	-	60	60	45	55	25	0	0	0	
	1台	-	60	60	60	60	30	30	30	15	
	0台	-	60	60	60	50 (調相停止30)	30	30	30	15	

(調相停止 30~60※)

(調相停止 25~30※)

以上

※北海道エリアの発電機並列状態などにより設定